

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。
また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業①：単位互換

○概要

単位互換制度は加盟校が形成してきた京都ワンキャンパスの中核的な取組であり、延べ約900名の学生が利用しています。学生は加盟校が提供する約350科目から、自身の関心・意欲にあわせて受講でき、大学の枠を超えた多様性のある「学び合い」が展開されています。国内でもこの規模で運営される単位互換は京都以外になく、京都ならではの高い教育力ある環境の維持・発展は財団の使命です。近年、本制度をめぐる環境としては、各大学でカリキュラムが整備され、教育の質保証の観点から履修登録可能単位数の見直しが進められていることなどにより、受講者の減少傾向が続いています。また、新型コロナウイルス感染症が各大学からの科目提供数、学生の送出しや受入数に大きく影響しています。

○主な事業

- ・京都ならではの特色、資源を活かした「京都世界遺産PBL科目」「京都ミュージアムPBL科目」の展開
- ・各加盟大学の教育研究の特色を活かした多様な分野（グローバル科目、教員免許等資格取得、音楽・芸術分野等）からの科目提供促進と充実
- ・大学設置基準、対面授業の必要性を踏まえつつ、オンラインのメリットと特色を活かした質の高い科目提供を促進する

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

[]

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

[]

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

[]

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業②：インターンシップ事業

○概要

インターンシップ・プログラムは、学生の大学から社会への接続を目的としたキャリア教育として大学連携によって展開しています。急速に社会変革が進み、仕事、働き方が大きく変化する中で、学生のインターンシップに対する期待は、就業体験や進路選択の目的にとどまらないものとなっています。また、受入先の企業・団体の目的も人材育成、社会貢献など変化、多様化しています。財団では京都地域全体で学生を育成し、社会の活性化に資するプログラムの構築を目指して本事業を推進しています。

○主な事業

- ・「ビジネス・パブリックコース」「長期プロジェクトコース」の2コースによるプログラム運営。
- ・事前・事後講義等におけるオンライン形式の活用と受入先との連携協力によるオンラインの活用を含めた多様な実習活動の展開。
- ・受入先、加盟校、および加盟団体の関係者間の情報共有、ネットワーク構築によるプログラム内容の充実化、実施体制の強化。

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業③：高大連携事業

○概要

学校間競争や個別の利害関係を乗り越え、「産官学」という京都ならではの『面と面の連携』による人材育成を目指し、2003年5月に、全国に先駆け、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都が連携し、「京都高大連携研究協議会」を発足しました。以降、高大連携教育フォーラムを主軸とし、様々な高大連携事業を展開しています。

○主な事業

- ・高大連携教育フォーラム

毎年12月上旬の土曜日に、高校・大学間の連携・接続に関する国内動向の情報共有や、京都における取組の情報発信を目的として開催しています。

- ・高大連携キャリア教育企画

高校生・大学生・社会人といった異なる世代、学校の様々な立場の人の意見・考えに触れることで、視野を広げてもらうほか、大学入学後の学び方、社会に出てからの働き方・生き方の一端に触れてもらい、少しでも先を見据えた進路選択につなげるなど、高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的として、2018年度から「高大社連携フューチャーセッション」を開催しています。

- ・教職員交流企画

各校が抱える課題の解決、教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて定期的に集い、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場を提供すべく、2018年度から「京都高校教員交流会」を開催しています。

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

（2）その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業④：生涯学習事業（京カレッジ）

○概要

京カレッジは生涯学習の一環として、大学の授業科目を一般にも提供する「シティーカレッジ」として1997年から京都市と連携し、2007年からは「京（みやこ）カレッジ」と名称を変更して、高度化・多様化する社会人の学習ニーズに応える生涯学習事業として、約50の大学・短期大学等が特色ある授業科目や公開講座を提供しています。

○主な事業

- ・「大学講義」、「市民教養講座」、「京都力養成コース」、「教養力養成コース」の4分野、約200科目による京カレッジの企画運営と大学の教育研究の特色、生涯学習の取り組みの発信。
- ・働く世代を対象とした新たなリカレント教育プログラムの具体化・実施（2022年度より実施予定）。
- ・加盟校のリカレント教育、生涯学習の情報を広く発信し、利用アクセスを高めるための「ポータルサイト」の構築（計画準備中）

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑤：FD関連事業

○概要

大学コンソーシアム京都では、教員が授業内容、方法を改善し、向上させるための組織的な取組として、1995年より、加盟校とともに京都地域におけるFD活動を推進しています。当財団のFD事業は、大学教職員のFDに対する意識を高め、大学教育の改善に資することを目的として、毎年2月下旬頃に開催する「FDフォーラム」と、大学教職員向けのFD研修を展開する「FD企画研究事業（FD合同研修プログラム）」に大別されます。

○主な事業

・FDフォーラム

1995年から、①FD活動の普及②大学教育、授業改善に関する実践・研究報告、人的交流の場の提供③京都におけるFD活動の情報発信をテーマに、毎年開催しています。*
2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

・大学執行部塾

加盟校の学長をはじめ、大学執行部層を対象にした勉強会で、2010年度より実施しています。

・テーマ別研修

新任教員、FDに関心のある教員、FD関連部署に勤務する職員等を対象とした「テーマ別研修（FD基礎知識、シラバス作成・成績評価、授業設計・授業実践、アクティブ・ラーニング、障がい学生支援、オンライン授業など）」を2010年度より実施しています。

・京都FD交流会

FD担当やFDに関心を寄せる教職員が交流できる場の提供を目指し、2019年度から「京都FD交流会」を企画し、実施しています。

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

（2）その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑥：SD関連事業

○概要

加盟校の大学職員を対象とした大学の管理運営や教育・研究支援等の資質向上を目的として、様々な研修事業を実施しています。加盟校からのニーズの高い重要事業としてSDを位置づけ、連携組織としての特色を生かした取組を積極的に推進しています。

○主な事業

・SDフォーラム

SD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、大学職員の能力向上や、大学の枠を超えた情報交流の場を提供することを目的として実施しています。

・SD共同研修プログラム

職員の能力向上や大学業務の効率化・高度化を目的に、共同組織で実施することによるスケールメリットを生かした事業です。大学を越えた情報交換やネットワークづくりの機会としても活用いただいています。

・SDゼミナール

2015年度から開講している本ゼミナールは、全9回の講義受講と、公開プレゼンテーションでの発表、修了レポートの執筆を通じて、将来の大学運営を自律的・主体的に担う大学職員の育成を支援することを目指しています。

* 2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

・SDガイドブック * 隔年発行

加盟大学・短期大学において、大学職員として働きはじめた方を対象に、大学職員の能力開発の取組を指すSDに興味を持ってもらい、高等教育で働く意識を高めてもらうことを目的として作成しています。

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

（2）その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑦：プロモーション事業

○概要

財団では、京都学生広報部による活動と、京都B&S(Brother&Sister)プログラム事業をプロモーション事業に位置付けています。

京都学生広報部では、学生目線のリアルな京都の情報を全国の中高生に向けて発信しています。

京都B&Sプログラムでは、京都を訪れる修学旅行生等に対して、学生がガイド役となり、交流もしながら、観光地や大学のキャンパスを案内し、京都のまちや大学の魅力を直接伝えています。

○主な事業

- ・ 京都学生広報部<京都市協働事業>
- ・ 京都B&Sプログラム事業
<京都観光推進協議会（事務局：京都市）、JTB京都支店 協働事業>

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑧：都市政策研究推進事業

○概要

京都から発信する政策研究交流大会は、学生が、都市が抱える課題や問題を発見し、その解決に向けた研究成果を発表し、交流する場として開催しています。

論文集や受賞した提案のホームページにおける公開、上位賞受賞者と行政担当者との懇談会の開催などとおし、地域課題の解決に反映する仕組みの構築にも努めています。

○主な事業

- ・京都から発信する政策研究交流大会

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑨：地域連携事業

○概要

学まちコラボ事業では、京都市と連携し、学生がゼミやサークル単位で地域と連携して取り組むまちづくり活動を支援しています。

「学まち連携大学」促進事業では、地域と連携した活動に係る実践的な教育プログラムの開発と実施に取り組む大学を支援しています。

これらの取組は、大学・地域連携シンポジウムなどの機会や、ポータルサイト「がくまちステーション」にて広く発信しています。

また、京都から発信する政策研究交流大会における政策提言も「がくまちステーション」へ掲載し、優れた提案と学まちコラボ事業の連携による、取組の継続と研究成果の社会還元が図れる仕組みづくりにも取り組んでいます。

○主な事業

- ・学まちコラボ事業＜京都市協働事業＞
- ・「学まち連携大学」促進事業＜京都市協働事業＞
- ・がくまちステーション

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑩：学生交流事業

○概要

学生が実行委員会を組織し、実行委員会が主体となって活動しています。

活動を通じて、企業や行政、地域の人々との連携・交流を深め、また、多様な価値観に触れることで、団体としても個人としても成長することを重視し、学生が自ら考え・行動することを促すとともに、将来的に学生が社会に出る際に役立つ「汎用的能力」を修得できるよう支援しています。

○主な事業

- ・ 京都学生祭典
毎年10月に平安神宮前・岡崎プロムナード一帯にて繰り広げられる一大イベント。2022年は第20回。
- ・ 京都国際学生映画祭
毎年2月に開催する日本最大規模の国際学生映画祭。2022年は第24回。

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（１）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（２）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑪：障がいのある学生支援

○概要

障がい学生支援に関するノウハウや問題意識の共有を目的としたネットワークの形成、高大連携の場を設けることを通じた障がいのある高校生が大学に進学しやすい環境構築や、聴覚障がい学生に対する情報保障のスキル向上等を実施しています。

○主な事業

- ・ 関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）
実務担当者の交流を目的とした懇談会
- ・ 大学における障がい学生支援に関する高校教員との懇談会
大学の実務担当者と高校教員との懇談会
- ・ テーマ別研修会
「施設」「入試」「災害」など障がい学生の対応が直接的には少ない部門を対象としたテーマを設定した研修会
- ・ ノートテイカー・パソコン（PC）テイカー養成講座

（１）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑫：留学生誘致・支援

○概要

国際事業部を事務局とする「留学生スタディ京都ネットワーク」では、国内外への効率的・効果的なプロモーションによる「留学先としての京都」の認知度・ブランド力を高めることで、海外・国内からの京都留学（進学）の促進につなげるとともに、加盟校の留学生誘致活動等の支援や、京都で学ぶ留学生に対する、留学生・日本人学生・地域との交流促進、就業支援など受入環境を整備することで京都における留學生生活の満足度向上に向けた支援にオール京都で取り組んでいます。

○主な事業

- ・ 京都留学総合ポータルサイト「STUDY KYOTO」運営
国内外に向けた京都留学の魅力や学校情報などを総合的に発信
- ・ 京都留学生PRチーム運営
現役留学生目線での京都留学PR情報を各種SNSで発信
- ・ 教育旅行支援
海外から京都を訪れる教育旅行の一部コーディネートを支援
- ・ 国内外での京都留学（進学）誘致活動
日本留学フェア出展、京都留学説明会開催、首都圏や京都などの日本語学校向け誘致事業、京都留学生ショートムービーコンテストなどの実施
- ・ 会員向けセミナー
留學生在留審査手続の申請取次研修会など会員向けセミナーの実施
- ・ 留學生対象インターンシップ
有給型と無給型を組み合わせた就業体験、交流会や事前・事後研修なども実施
- ・ 留學生就職情報ポータルサイト「Beyond STUDY KYOTO」運営
公的団体等が実施する留學生向け就職情報を一元的に発信
- ・ 留學生支援・交流コミュニティ事業運営
日本語学習支援、企業見学、他団体との連携による就業支援、同コミュニティ「KyoTomorrow Academy」を活かした各種交流事業の実施
- ・ 留學生向け住宅情報サイト
5言語で住宅情報を検索できる「Kyoto Housing Search For International Students」を運営

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

--

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

--

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

--

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

--

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑬：学生の海外留学・交流促進事業

○概要

加盟校所属学生の海外留学促進を目的に、単位互換事業を活用したオーストラリアメルボルンへの短期留学プログラムやTOEFLやIELTS等の語学学習支援を実施しています。

また、主に海外留学を検討する学生を対象に、京都や日本の伝統文化についての理解を深め留学中あるいは京都を訪れている外国人に対して京都や日本の魅力を英語で伝えられるよう、伝統文化体験を交えながら日本・京都の文化や社会について英語で表現する方法を学び・発表する「英語で京都をプレゼンテーション」を開催しています。

○主な事業

- ・ 単位互換短期留学（オーストラリア・メルボルン）
メルボルンにある大学附属語学学校で4週間の英語集中コース（ELICOS）を受講する短期留学プログラムの実施（ホスト校：龍谷大学）
- ・ TOEFL iBTスキルアップセミナー
米国ETS公認トレーナーによるTOEFL iBTスキルアップセミナーの実施
- ・ IELTS Pretesting体験会（学生向け）
本番に近い環境で行うIELTSプレテストを実施
- ・ 英語で京都をプレゼンテーション
茶道や華道などの伝統文化体験を交えながら日本・京都の文化や社会について英語で表現する方法を学び・発表するセミナー（全6回）を実施

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

1 大学コンソーシアム京都の事業への評価

大学コンソーシアム京都（以下、財団）が、第5ステージ（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑭：教職員のグローバル化支援事業

○概要

留学生支援の充実や海外大学との連携事業推進など、高等教育のグローバル化が加速するなか、大学教員・職員の英語運用能力は基礎能力として不可欠となっています。また、多くの国と地域からの留学生には、それぞれの文化的背景があり、円滑な意思疎通を図るためには、語学を超えて、習慣や社会通念、宗教等への理解も欠かせないものとなっています。

このため、様々な場面を想定したケーススタディができる英語運用能力向上のための研修や英語圏以外の文化を学ぶ「教職員スキルアップ研修」を実施することで、実務能力の底上げを行うとともに、スキルアップに対する意欲向上を図っています。

この他、加盟校における学生・留学生の送り出し・受入対応、海外大学との交流実績等の各校取組事例を共有することを通じた加盟校の国際化に向けた取組支援を行っています。

○主な事業

- ・ 教職員スキルアップ研修
英語研修と多文化理解研修（中国・イスラム教を中心とした東南アジア）を実施
- ・ 加盟校の国際化に向けた取組事例共有
留学生の受け入れや日本人学生の送り出しに関し各校取組事例を共有するセミナーを実施

（1）評価 ※【評価基準】①はA～E、②及び③はA～Dから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②京都の「大学間連携」にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④本事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤次期中期計画（2024～2028）で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（１）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（２）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業①：大学施設整備支援

○概要

大学の良好な施設整備計画を実現するために、大学施設の整備を支援する窓口を設置し、建築基準法や都市計画法等に基づく技術的な助言や施設整備に必要な各種手続きが円滑に進むよう、関係者と調整するなど、積極的な支援を展開しています。

○主な事業

<令和元年度>

- ・京都女子大学：L校舎の改修整備（景観法に係る認定に向けた調整）
：DE校舎の新築（土壌汚染対策法に係る手続きの調整）
：寄宿舎の整備（旅館業法に係る寄宿舎の扱いについて調整）
- ・京都橘大学：地区計画の策定（地区計画策定に向けた調整）

<令和2年度>

- ・京都橘大学：新棟の建設（開発に係る調整）
- ・京都産業大学：新寮の建設（開発に係る調整）
- ・京都先端科学大学：工学部棟・学生寮の建設（建築基準法等に係る調整）

<令和3年度>

- ・京都産業大学：乗馬場の厩舎の整備（風致地区手続きに係る調整）
- ・立命館大学：原谷グラウンドの土砂災害対策工事（補助制度の活用に係る調整）
：柘野グラウンドの建物改築（建築基準法に係る調整）

（１）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④ 現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤ 3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（１）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（２）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業②：「ブラック企業・ブラックバイト」の根絶

○概要

本市では、2016年3月、京都労働局、京都府と連携してブラックバイト対策に取り組む「京都ブラックバイト対策協議会」を設置し、学生アルバイトの多い事業主団体への労働環境改善に向けた要請などを行っています。

また、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置するとともに、学生を対象にワークルールに関するセミナー等を開催するなど、ブラック企業・ブラックバイトの根絶に向けた取組を進めています。

○主な事業

＜京都中小企業担い手確保・定着支援事業＞

- ・ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催
- ・ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応

（１）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（１）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（２）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業③：総合的な留学生施策の推進（留学生施策全体）

○概要

京都に多くの留学生が集い、市民との異文化交流が進むことは、大学自体の活性化にとどまることなく、市民の異文化に対する理解やまちの活性化にも大きく寄与する。また、留学生が卒業後も京都で就職・生活していくよう支援していくことにより、定住人口の維持・増加や中小企業の担い手の確保につながるなど、京都経済にとってもプラスになる。さらに、留学生が将来的に京都ファンになって帰国するということは、海外における京都の魅力発信にもつながる。

こうしたことから、本市では、平成21年には、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」において、留学生の誘致・支援を大きな柱の一つとして初めて位置付け、産・学・官が連携した京都での留学生誘致・支援施策を推進するために平成27年に設立した留学生スタディ京都ネットワークを軸に、大学や関係団体等と連携し、留学生誘致・受入環境整備・就職支援を一貫して展開し、市内の留学生の増加、また、大学・学生の国際化及び市民の国際理解の促進を図っている。

また、令和3年3月に策定した京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」の重点戦略の一つに、「担い手成長支援戦略」を位置付け、多様な学生がともに京都で学び、将来的にも京都で活躍する国際性豊かな環境づくりを通じて、大学・学生のまちの特性を生かした経済・文化・地域の担い手を育成することを掲げ、様々な施策を推進している。

○主な事業

<留学生誘致>

- ・留学生スタディ京都ネットワークとの協働による京都への留学生誘致の推進
- ・「京（みやこ）グローバル大学」促進事業による大学への支援

<受入環境整備>

- ・京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業

<就職支援>

- ・京都の地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業

（１）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業④：京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業（受入）

○概要

留学生は将来それぞれの国と京都をつなぐ懸け橋となる存在であり、京都で学んだ留学生が京都ファンになるということは、京都の魅力伝える口コミの発信及び将来的な留学の促進、そして、卒業後の京都への定着にもつながる。

一方で、入学直後の留学生にとっては、行政手続等が煩雑になりがちであるという課題がある。

そこで、こうした留学生に対し行政手続等に関する情報提供等を行うことによって、よりスムーズに生活をスタートできるよう支援している。また留学生が京都で生活するなかで、京都ならではの文化芸術等に親しみ、京都ファンになるきっかけを創出するための機会を提供している。

更に令和4年度からは、京都で学ぶ多様な学生が、京都の文化芸術に親しみ、京都ファンになっていただくことで、市内での就職や定住促進及び海外における京都の魅力発信につなげていくために、新たに、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる参加体験型プログラムを実施する。

○主な事業

- ・ウェルカムパッケージ…入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を実施

- ・留学生優待プログラム…京都市の文化施設の見学・体験等の機会の提供

- ・参加体験型プログラム…京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる参加型の体験プログラムの実施

（1）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑤：地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業（定着）

○概要

大学や国籍の枠を超えた留学生を含む学生をグローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持った「グローバル」な担い手として育成するとともに、学生と京都の企業がお互いを知る機会を創出するため、留学生を含む学生のチームが、京都の企業と連携したPBL（Project(Problem)-Based Learning：課題解決型学習）により、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などに取り組む事業を平成26年度から実施している。

これまでの成果を踏まえつつ、令和4年度からは従来のPBLに加え、留学生を含む学生が就職活動前の早い段階から、京都企業と出会い・知るきっかけづくりの場を新たに設け、京都で学ぶ学生が将来やりたいことの具体的なイメージづくり、更には京都での担い手の育成、定住促進に繋げていく。

○主な事業

- ・京都の企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などに取り組む。（短期～長期をオンラインを活用して実施）
- ・京都で学ぶ学生と京都の企業の出会いの場づくり・交流会を実施（R4～実施）

（1）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤ 3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑥：輝く学生応援プロジェクト

○概要

京都市大学のまち交流センター1階に学生Place+（かくせいプラス）を開設し、学生による社会貢献活動や京都のまちの活性化につながる活動に対し、活動場所の提供、市民活動経験のあるコーディネーターによる助言などの総合的支援を行うことにより、学生が持つエネルギーを京都のまちの活性化に繋げています。

また、学生の活動と地域のニーズのマッチング・連携を支援する「むすぶネット」、社会貢献活動等に関心のある学生とボランティア活動をマッチングする「学生ボランティアチャレンジ」に取り組み、学生の主体的な活動を総合的にサポートしています。

○主な事業

- ・学生Place+の運営
- ・学生ボランティアチャレンジ
- ・「むすぶネット」（学生・地域連携ネットワーク）
- ・輝く学生応援アワード
- ・地域連携・地域課題解決実践のためのワークショップ事業
- ・コミュニティFMラジオ局を活用した学生の地域での取組発信事業

（1）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（1）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（2）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑦：学生と地域企業の交流促進

○概要

本市では、学生が集うキャンパスプラザ京都内に「京都市わかもの就職支援センター」を2016年4月に開設し、大学の低年次生から概ね卒業後3年以内の方までを対象に、就職活動に関する様々な相談への対応や情報の提供、就職後のフォローアップを実施するほか、京都企業の魅力を紹介するとともに、学生のキャリア形成を図る学生と地域企業との交流促進に取り組んでいます。

また、約4,000社の京都企業の強みや特徴のほか、働き方改革の取組状況などを紹介するウェブサイト「京のまち企業訪問」を運営するなど、京都で学び、京都で働くことを希望する若者等の就職を支援しています。

○主な事業

<京都中小企業担い手確保・定着支援事業>

- ・学生と京都の中小企業との交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施
- ・学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進
- ・京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知
- ・大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施

（1）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

2 京都市の事業への評価

京都市が、大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2019～2023年度）の期間中に取り組んできた以下の事業を、どのように評価されますか。

（１）評価①についてはA～E、②及び③はA～Dのいずれかから一つを選択してください。④及び⑤は、該当がありましたらご記入ください。

また、（２）に、本事業に関するご意見等をご記入ください。

事業⑧：大学と産業・地域との連携

○概要

大学研究者の研究内容、大学が有する特許をはじめとした知的財産などの大学シーズの活用や連携を推進するため、京都高度技術研究所（ASTEM）、京都市産業技術研究所、京都知恵産業創造の森等によるコーディネート活動を行っています。

また、京都の大学の知的資源・ノウハウとの連携・協働による新事業創出を推進するため、京都市成長産業創造センター、京都バイオ計測センターなどにおいて、産学連携による共同研究・プロジェクトを推進しています。

○主な事業

＜京都経済センターオープンイノベーションの推進（京都知恵産業創造の森 産学公連携推進部）＞

- ・産学公連携によるオープンイノベーションを推進するためセミナー等を開催
- ・企業ニーズと大学シーズ等を結び付ける相談窓口を設置・運営
- ・産業支援機関の支援施策等の情報発信

＜京都市成長産業創造センターでの取組の推進＞

- ・大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進

（１）評価 ※下記【評価基準】A～Eから選択してください。

①関心度

【評価基準】

A	B	C	D	E
関心があり、積極的に活用している	関心があり、ある程度活用している	関心はあるが活用の機会がない	関心がない	事業を知らない

②加盟大学全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

③社会全体にとっての意義

【評価基準】

A	B	C	D
ある	ある程度ある	あまりない	ない

④現事業の改善点 ※該当すると考えるものに☑してください（複数回答可）。

テーマ・課題の設定

参加方法

対象者

事業の運営方法

その他

✓の項目について、具体的に記入してください。

⑤3～5年で達成すべきこと（目標） ※具体的に記入してください。

(2) その他、本事業についてご意見等がありましたら、記入してください。

⑨学生市内就職・定住の促進

京都のまちづくりの多様な側面において、大学・学生は重要な主体となっており、京都市に多くの大学が立地し、多くの学生が学ばれることは、学術研究都市としての都市格の向上や若者の集積によるまちの活性化、高等教育機関として地域を支える高度人材の育成、関連する雇用の創出など、大きな意義を持っています。

18歳人口の減少など、大学や学生を取り巻く社会潮流の変化の中、京都市が今後も若い世代に選ばれ、魅力あふれるまちであり続けるためには、京都で学ばれた学生に卒業後も京都で暮らし続けるとともに、地域企業の担い手等として活躍していただくことが重要であると考えています。

京都で学んだ学生が、卒業後も京都で活躍していただくために必要な京都市の役割・施策について、ご意見を記入ください。

(例) 必要な役割・施策

- ・学生に京都に愛着を持っていただくための地域連携の取組
- ・魅力的な企業の誘致
- ・起業に関する支援
- ・卒業後の学生が暮らしやすい住宅政策
- ・情報発信 など

①学生市内就職・定住を促進するために必要な役割・施策

②その他

⑩今後のキャンパスプラザ京都の在り方・機能

キャンパスプラザ京都は、大学相互間及び大学と産業界、地域社会などの間の連携及び交流を促進する活動拠点として、セミナーや研修、会議などを行うための講義室、演習室、会議室、ホールなどを備えています。

平成12年に開館して以来、20年以上が経過する中、この間のコロナ禍や高等教育を取り巻く環境の変化等を踏まえ、今後の大学政策の在り方とともに、キャンパスプラザ京都の在り方や必要な機能についても、検討を進めていく必要があります。

貴大学・短期大学では、今後のキャンパスプラザ京都にどのような在り方や機能を期待されますか。また、改善すべき点等のご意見をご記入ください。

※施設（ハード）面、運用（ソフト）面のどちらに関する御意見でも結構です
ので、可能な限り、具体的に記入ください。

①今後のキャンパスプラザ京都に期待する在り方・機能

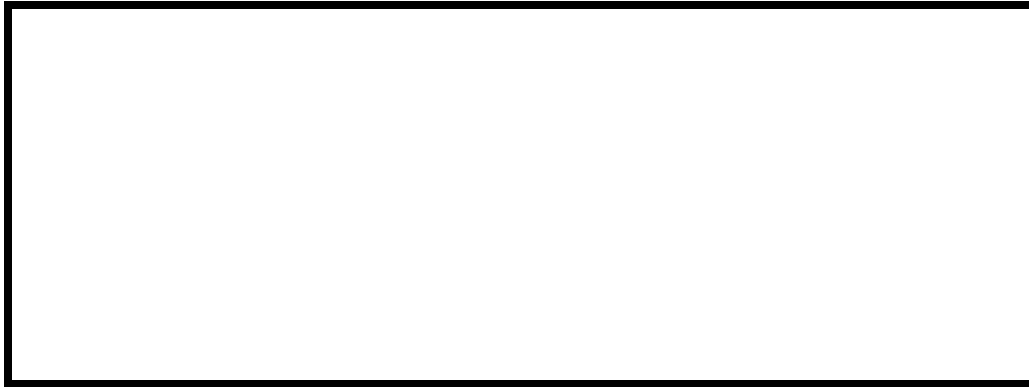
（大学や学生を取り巻く社会潮流の変化の中、変更が必要な機能や改善すべき点等）

【記載例】

- ・学生がキャンパスプラザからオンライン授業に参加するための施設整備を行ってほしい
- ・学生の自習室や自由に使える図書館の常設など、より学生にとって開かれた場所となることを目指してほしい
- ・大学と親和性のある組織・施設を誘致してほしい



②その他



【参考】キャンパスプラザ京都の施設概要

1 キャンパスプラザの概要

- ・ 「大学間連携」を実現するための「共同施設」として平成12年に開館
- ・ 指定管理者は大学コンソーシアム京都
- ・ 年間利用者は約35万人
 - ※ 貸会議室等の全体使用件数に占める大学の使用割合は約3割
 - (R2は新型コロナウイルス感染症の影響により、16.4万人)
- ・ 地下1階地上6階建、敷地面積約2,600㎡、延床面積約11,700㎡

2 各階における施設概要

- 1階：大学コンソーシアム京都事務局、学生place+など
- 2階：第1～3会議室、ホール、和室
- 3階：放送大学京都学習センター
- 4階：第2～4講義室
- 5階：第1講義室、第1～5演習室、共同研究室
- 6階：大学院等共同サテライト、京都市わかもの就職支援センター、第5、6演習室 など

3 主な機能

① 事務局としての機能

- ・ 大学コンソーシアム京都の事務局として48名が勤務（R4.4時点）しており、職員の執務室として利用
- ・ 単位互換事業やリカレント教育事業等、大学コンソーシアム京都が取り組む事業や、大学コンソーシアム京都の評議会、理事会等の開催場所として、講義室等を利用

② 学生団体の活動や学生の交流に係る拠点としての機能

- ・ 京都学生祭典、京都学生広報部等の活動を行う事務スペースとして利用
- ・ 学生place+など、京都らしい学生生活への誘導を行う拠点

③ 地域連携の活動拠点としての機能

- ・ 地域連携を促進するための学生の活動拠点として利用

④ 地域企業との連携拠点としての機能

- ・ 京都市内の中小企業の担い手確保を支援するとともに、若者が京都で働き、暮らすための就職を支援する拠点として、「京都市わかもの就職支援センター」を設置

3 大学コンソーシアム京都の運営（出向体制、財政）

大学コンソーシアム京都の、第5ステージプラン（2019～2023年度）の職員の出向体制や、財団財政をどのように評価されますか。

評価理由や、改善すべき点等のご意見をご記入ください。

（1）職員の出向体制

2021年度の出向者は19名（大学14名、京都市3名、京都府2名）です。

加盟大学及び行政機関からの出向者は、それぞれ異なった組織の中で仕事をしてきた者同士が、一定期間、同じ職場で協働することから、様々な気づきや刺激を通して多くを学び、自己成長する貴重な機会となり、職員の人材育成の一環としても大いに有意義であることから、出向職員数及び出向大学数の増加に向けて、加盟校への働きかけを積極的に行っています。

これまでの実績やこれからの方針について、評価や改善すべき点をご記入ください。

（2）財団の財政

財団運営は、2014年度から現在まで、収支均衡を継続するなど、適正な財政状況を維持することができています。

しかし、収入を加盟校等からの会費や、キャンパスプラザ京都の指定管理料に大きく依存しているため、大幅な収入増は見込めず、厳しい財政状況に変わりありません。今後も、事業ニーズやその効果の精査を行いつつ、事業を実施していく必要があります。

これまでの実績やこれからの方針について、評価や改善すべき点をご記入ください。

4 ①大学コンソーシアム京都に期待する役割や取組

貴大学・短期大学では、大学コンソーシアム京都に、どのような役割や取組を期待されますか。また、新たな役割や取組のご提案があれば、ご意見とあわせてご記入ください。

※可能な限り、具体的に記入ください。

①期待する役割、新たな役割

--

②期待する取組、新たな取組

(具体的な事業内容、現事業に対するよう要望、必要な制度・仕組み)

--

③その他

--

4 ②京都市に期待する役割や取組

コロナ禍や高等教育を取り巻く環境の変化等を踏まえ、貴大学・短期大学では、京都市に、どのような役割や取組を期待されますか。また、新たな役割や取組のご提案があれば、ご意見とあわせてご記入ください。

※可能な限り、具体的に記入ください。

①期待する役割、新たな役割

--

②期待する取組、新たな取組

(具体的な事業内容、現事業に対するよう要望、必要な制度・仕組み)

--

③その他

--